

問題行動のある重症心身障害者への生活環境調整の工夫 —大部屋で自由に動けるための用具を作成して—

鴨川千春^{1)*} 松田智子¹⁾ 山口有香¹⁾ 圓井和恵¹⁾ 坂口廣子¹⁾

1) 鳥取医療センター看護部 7 病棟

An environmental adjustment idea for a person with severe mental and physical disabilities with problem behaviors

-Using a device that allows her to freely move in a large ward -

Chiharu Kamogawa^{1)*}, Tomoko Matsuda¹⁾, Yuka Yamaguchi¹⁾, Kazue Marui¹⁾, Hiroko Sakaguchi¹⁾

1) Department of Nursing, the 7th ward, National Hospital Organization Tottori Medical Center

*Correspondence: 鳥取市三津 876 番地鳥取医療センター看護部 7 病棟

要旨

行動範囲の制限された隔離部屋で過ごすことにより問題行動が増強した患者 N 氏に対し、集団の中で安全に過ごせるための用具を作成し生活環境を整えた結果、問題行動が減少した。鳥取臨床科学 1(2), 299-303, 2008

Abstract

As the number of problem behaviors of an inpatient with severe mental and physical disabilities increased because of keeping her in an isolated room that limited her activities, an environmental adjustment was made for her, using a device that enabled her to freely and safely move around and to stay as one of the members of a group consisting of several inpatients who had different severity of mental and physical disabilities, albeit who were admitted to a single large ward. As a result, the number of her problem behaviors significantly decreased. *Tottori J. Clin. Res.* 1(2), 299-303, 2008

Key Words: 問題行動, 生活環境調節の工夫; problem behavior, environmental adjustment idea

はじめに

当病棟には、寝たきりの患者と移動のできる患者が共に大部屋で生活している。N 氏は大部屋で、突然に大声を出しながら突進し、他患者や物体に衝突するなどの危険な行動があるため、隔離部屋での生活を余儀なくされている。しかし、隔離部屋での生活において、急に大声を出しながら動き回って頭を壁や床に打ち付け、顔面打撲による外傷が頻回に起こるなどの問題行動が増強した。

佐々木¹⁾は、「人は感情を言葉や行動でうまく表現できず、他者に伝わらないことがある。また、感情のコントロールができず、その場面

を切り抜けられないこともある。そのときの心のあり様が、さまざまな行動として現れ、私たちに問題行動として映ってくるのである。」と述べている。我々は、隔離部屋では、行動範囲の制限や、対人関係の面で刺激の乏しい環境であるなどの要因がからみ合って、N 氏の問題行動が引き起こされているのではないかと考えた。そこで、大部屋で自由に移動できる環境が N 氏の問題行動の減少に効果的であると考え、大部屋で生活するための用具ジョイント型ガードを作成し使用した。その結果、N 氏と他患者の両者にとって安全で適切な